



研究用試薬

ヒストファイン

第一抗体

CD34モノクローナル抗体(NU-4A1)(ヒストステイナー用)

(動物種: マウス)

包装: 60テスト(12mL) Code: 713111

製造販売元

株式会社ニチレイバイオサイエンス

〒104-8402

東京都中央区築地6-19-20

TEL. 03(3248)2208 FAX. 03(3248)2243

- 本品は、自動染色装置ヒストステイナー用の試薬 第一抗体である。
- 特異性および抗原分布: ヒト造血幹細胞抗原と特異的に反応する。骨髄単核細胞の1-3%と反応する。この画分には造血幹細胞と造血前駆細胞が含まれる。また、急性骨髄性白血病細胞および急性リンパ性白血病細胞の一部と反応する。血管内皮細胞および平滑筋や神経に付随する線維芽細胞の一部あるいは乳腺における小葉のストローマ細胞などに反応することが認められている。
- 国際抗体分類: Fifth International Workshop and Conference on Human Leucocyte Differentiation Antigens (1993)でCD34に分類されている。
- クローン名: NU-4A1
- 抗体のサブクラス: IgG1
- 製法: 培養上清液より、プロテインAアフィニティークロマトグラフィーを用いて精製している。

1. 内容

第一抗体・・・CD34モノクローナル抗体(NU-4A1)(動物種: マウス)。

液状。

ウシ血清アルブミン(BSA)と0.1%アジ化ナトリウムを含むリン酸緩衝生理食塩水(PBS)にて、即時使用可能な抗体濃度に希釈済み。

1バイアル中に12mLを含む。

2. 使用目的

組織・細胞中のヒトCD34抗原の染色。血管内皮細胞の同定に有用である。

3. 切片の準備

前処理(抗原賦活化)として10mMクエン酸緩衝液(pH6.0)を用いたマイクロウェーブ処理が必要である(裏面参照)。

■参考: 組織の固定状況等によりマイクロウェーブ処理の代わりに10mMクエン酸緩衝液(pH6.0)を用いたオートクレープ処理をすることで、より良好な染色結果が得られる場合がある。

4. 使用方法

1) 他の試薬とともに試薬ラック(ヒストステイナー用)にセットし、染色を開始する。

2) 染色終了後、すみやかに2-8℃に保存する。

5. 染色方法の設定

反応時間を30分間とする。

6. 貯法

2-8℃保存。

7. 使用上又は取扱上の注意

ヒト由来の検体は、取扱者に感染を引き起こす危険性がある。従って、適切な取扱および廃棄法を用いるとともに、この免疫組織(細胞)化学染色法を施行するに際し、関連技術および操作法に充分習熟しておかなければならない。

試薬バーコードラベルを使用する場合は、自動染色装置ヒストステイナーのプログラムにバーコードラベル情報を入力する必要がある。本製品が未登録の場合は、下記データを入力(漢字のみ全角、他半角入力)し、登録すること。

専用ボトルに貼付されているバーコードラベル内の情報

試薬名	CD34モノクローナル抗体(NU-4A1)
試薬略称(10文字)	CD34-MM
バーコード	CD34-MM
時間(分)	30

8. 主要文献

1) Parravicini, C. et al. : Leucocyte Typing V . 854, 1995

■ 研究用としてのみ使用すること。

■ 切片の準備

1. 50℃で十分に湯伸ばしした切片(3-4μm厚)をシランなどのコーティングスライド上に張り付け、37℃の恒温器内で16時間以上乾燥させる。
2. 脱パラフィン → 親水化 → PBS
3. 前処理(抗原賦活化) : マイクロウェーブ(MW(500W))処理
 - ① 緩衝液(下記記載)をバットに入れ、MW照射し沸騰させる。
 - ② 沸騰した緩衝液に切片を浸し、MWを5分間照射する。
 - ③ 再度、MWを5分間照射する。必要であれば、さらにもう一回、MWを5分間照射する。
※MW照射による沸騰で緩衝液は蒸発する。蒸発により緩衝液が減少し、切片の乾燥が危惧される場合は、ピーカー等であらかじめ沸騰させておいた精製水を減少した分だけ加えてからMW照射を行うこと。
※MW照射を1回(照射時間10-15分間程度)のみで行っても良い。
 - ④ バットごと切片を常温(15-25℃)に20分間以上放置し、ゆっくり熱を冷ます。
※MW処理後は、バットおよび緩衝液等が高温になっている。これらを取り扱う際は、手袋等を使用し火傷に注意する。
 - ⑤ スライドを緩衝液から取り出し、PBSまたはバッファーでよくすすぐ(3分間ずつ容器を2度かえるか、または洗浄ピンを使用する)。

・ 10mM クエン酸緩衝液(pH6.0)の作り方

A液 9mL+B液 41mL+精製水 450mL

A液 : 0.1M クエン酸水溶液

クエン酸一水和物($C_6H_8O_7 \cdot H_2O$)2.1g/精製水 100mL

B液 : 0.1M クエン酸ナトリウム水溶液

クエン酸三ナトリウム二水和物($C_6H_5O_7Na_3 \cdot 2H_2O$)14.7g/精製水 500mL

A液、B液は常温で保存可能である。ここから必要な時に調製する。

■ 参考 : 10mM クエン酸緩衝液(pH6.0)を用いたオートクレーブ処理の場合(おもて面の ■ 参考参照)

3. 前処理(抗原賦活化) : オートクレーブ処理
 - ① 緩衝液を耐熱性バットに入れ、切片を浸す。
 - ② バットに蓋をする。蓋が取れないように輪ゴムでとめる。
 - ③ 120℃、20分間オートクレーブ処理する。
 - ④ 圧力が十分下がった後、バットごと切片を取り出す。
 - ⑤ バットの蓋をはずし、バットごと切片を常温に20分間以上放置し、ゆっくり熱を冷ます。
※オートクレーブ処理後は、バットおよび緩衝液等が高温になっている。これらを取り扱う際は、手袋等を使用し火傷に注意する。
 - ⑥ スライドを緩衝液から取り出し、PBSまたはバッファーでよくすすぐ(3分間ずつ容器を2度かえるか、または洗浄ピンを使用する)。